

お口の健康

第5回 蓄膿症とむし歯

今回は、蓄膿症とむし歯の関係についてのお話です。一見、蓄膿症と歯は関係ないように思えますが、実はそうでもなかったりします。

蓄膿症とは、そもそもどんな病気なのでしょうか？ 鼻には、鼻の空洞（鼻腔）と、鼻の周囲の骨にある空洞（副鼻腔）があり、それぞれがつながっています。その骨の空洞（副鼻腔）の中の粘膜に炎症が起きたり、膿がたまったりする病気のことを、一般的に蓄膿症（副鼻腔炎）といいます。症状としては、目の下の辺りの痛み、重苦しさ、黄色いドロツとした鼻汁、頭痛などです。

それから、その副鼻腔はいくつかあって、歯にもっとも関連があるのは上顎洞といわれる空洞です。目と上アゴの間の頬の所にあります。そして、肝心の副鼻腔と歯の関係ですが、実は、上顎洞と上の奥歯の歯根は非常に近いのです。中には、奥歯の歯根が上顎洞の中に突き出している人もいます。



上の奥歯のむし歯を治療しないでそのまま放置していたり、歯の神経を取った後の消毒が不十分だった場合、ばい菌が侵入して歯根の先に膿が溜まります。つまり、その膿が上顎洞まで拡がっていくと、**むし歯が原因で蓄膿症**になるわけです。また、上の奥歯を抜いた時、上顎洞に穴が空いてばい菌が入り、蓄膿症になることもあります。

通常、蓄膿症は左右両方に症状が現れることが多いですが、歯が原因で起きた蓄膿症は、原因の歯がある側だけに症状が出ます。どちらか片方だけが蓄膿症の場合、上の奥歯の状態も歯医者で確認しておいた方がよいかもかもしれません。逆に、むし歯もないのに上の奥歯が痛くなることもあります。上の奥歯が痛くて咬めない、重苦しい、などの症状がある場合、歯は関係のない蓄膿症が原因のこともあるので、**要注意**。気になる方は、かかりつけの歯医者さんへご相談ください。

湯沢市・雄勝郡
歯科医師会

ホームページ：
<http://www.yutopia.or.jp/~yoda/>